

講演 (W17-4)

令和6年 能登半島地震における 医薬品流通について

石川県薬業卸協同組合 事務局長 **河村 幸一**



第57回日本薬剤師会学術大会の分科会17は、2024年9月23日（月・祝）にさいたま市のパレスホテル大宮で開催された。

同分科会では、石川県薬業卸協同組合の河村事務局長が、「令和6年能登半島地震における医薬品流通について」と題し、今年1月1日に発災した能登半島地震の被災状況とともに、発災直後の会員企業による懸命な初動対応を報告。さらに1月4日からの正式業務における方面別配送体制下での具体的な医薬品配送を説明した。その上で、社会インフラの一員として医薬品の安定供給を果たす医薬品卸の重要性を強調した。

はじめに

石川県薬業卸協同組合の河村と申します。本日は、このような機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。

私の方から「令和6年能登半島地震における医薬品流通について」と題して、お話ししたいと思います。皆様方の何かのお役に立てれば幸いです。

石川県薬業卸協同組合は日本医薬品卸売業連合会の傘下であり、8社の会員会社で構成されてお

ります（図表1参照）。

これら8社のご尽力により、被災エリアへの医薬品供給は、発災直後から何とか乗り切れたのではないかと考えています。

能登地震と被害状況

過去、能登地方で発生した主な地震についてですが、特に2021年以降は毎年、震度5～6の比較的大きな地震が発生しており、震度1以上の地震

は2021年の70回から2023年には241回と約3.4倍へ激増している状況の中、本年1月1日に能登半島地震が発生したということになります。

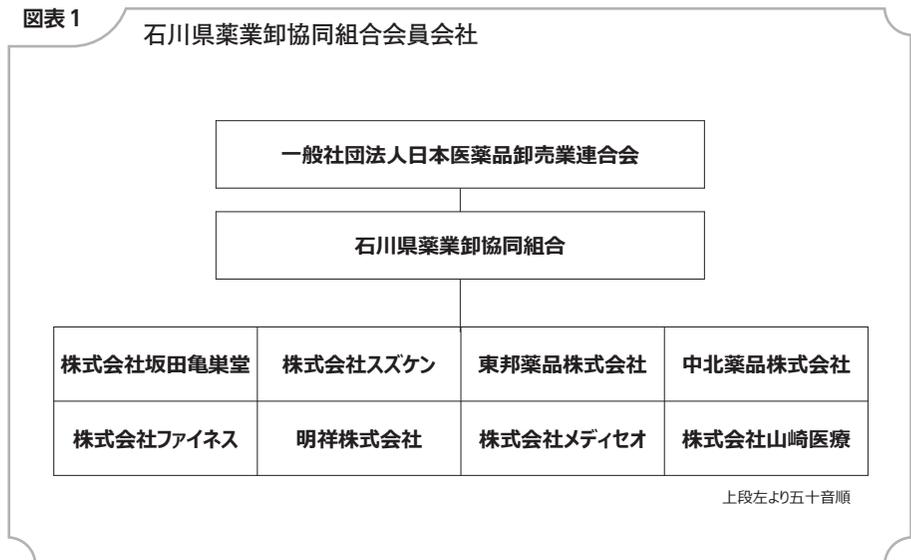
図表2は、令和6年能登半島地震の概要です。

地震発生日時は2024年1月1日16時10分頃、震央地名は石川県能登地方、マグニチュード7.6、最大震度は志賀町の震度7でした。能登エリアは震度6弱以上、金沢市でも震度5強と大変強い揺れでした。

この地震による被害状況は、石川県のホームページによると令和6年9月17日14時現在、災害関連死を含む死者数は374名、行方不明者3名、重症軽傷含む負傷者は1,589名で、甚大な被害となっています。

現在もニュース等で報道されていますが、復興はまだまだ道半ばというのが実感です。

図表1 石川県薬業卸協同組合会員会社



医薬品卸の初動対応と被害状況

まず、医薬品卸の初動対応として各社災害対策本部を設置し、従業員の安否確認を最優先で行いました。

同時に、電気、水道、電話、通信状況などライフラインの確認、社屋、物流センター、支店倉庫や医薬品等の被害状況の確認を行い、仕事初めの1月4日の正式業務開始に向けて、出社可能な従業員による医薬品の整理や社屋の清掃など復旧活

図表2 令和6年能登半島地震について

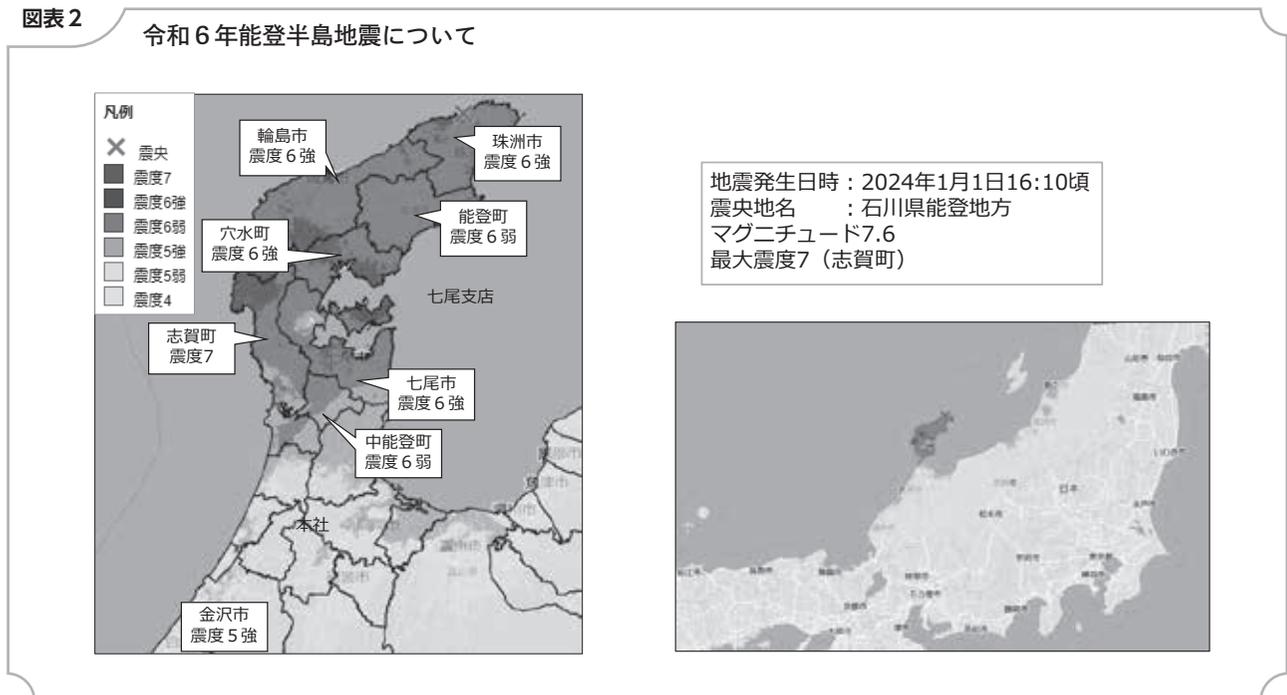


写真1



会員会社より提供

動を行いました。

また、お得意様の被災状況、被災エリアで必要とされている支援物資の確認と調達を行いました。

また、被災エリアへの配送に向かうために、道路状況や通行可能なルートについての情報収集を行いました。刻一刻と状況が変わり、正確な情報の入手には非常に苦労しました。限られた情報の中で、配送ルートや給油所の状況の確認を行いながら、人員の手配を行い、1月4日の正式業務開始に向けて体制を整備していきました。

被害状況については、会員8社では幸いにも人的被害の報告は受けていませんが、自宅損壊等の被害にあわれ、避難所生活を余儀なくされた従業員の方もいました。

様々な被害は発生しましたが、懸命な復旧作業

により、1月4日からの正式業務開始と方面別配送体制を整備することができました。また、能登エリアでは断水が長引き、会員各社の支店がある七尾市でも断水の復旧には2月～3月までかかったというのが実状で、そのような状況下、会員各社は医薬品の配送を行いました。幸いにも電気関係は大きな支障はありませんでした。

写真1は、会員会社から提供いただいたものですが、商品の多くが商品棚から落下し、一部、商品棚自体も倒れるなどの被害でした。地面の亀裂等も発生しました。

発災後の1月2日と3日の医薬品配送

これまでは、1月4日の正式業務開始へ向けた対応についてお話ししましたが、1月2日と3日の医薬品配送について、少し掘り下げてお話しします。

地震発生翌日2日の9時頃には石川県健康福祉部より被災エリア4病院への緊急薬の配送要請がありました。届けた医薬品は、速効型インスリン、破傷風トキソイド、内服、外用の抗生剤、消炎鎮痛剤でした。12時頃に金沢市を出発し、通常時は約1時間で到着する七尾支店まで約2時間30分を要しました。

七尾支店からは、輪島方面と能登町方面の二手に分かれ配送に向かい、従業員の安全を考慮して



令和6年能登半島地震での被害と対応について講演

2人1組で行いました。

輪島方面については15時頃に七尾支店を出発し、16時30分頃に穴水町の病院へ無事配送を完了し、輪島市へ向かい、病院への配送が完了したのは20時頃でした。その後、七尾支店へ向かいましたが、断続的な雨と二次災害を防ぐため能登空港付近で通行止めにあい、この日は能登空港に避難し、車中泊で一晩過ごすこととなりました。翌日、9時頃に七尾支店に到着しました。

能登町方面については2日15時頃に七尾支店を出発しましたが、道路に陥没箇所が数か所あり、

夜道も危険なためとの理由から、警察から通行を止められ、当日中の配送を断念し、七尾支店に帰社しています。翌3日、能登町方面の配送は9時頃に七尾支店を出発し、15時頃に配送を完了し、24時頃に七尾支店に到着しています。

1月2日、3日は医療機関、保険薬局からの要請を受けて非常時対応として医薬品配送を行いました。

1月2日、3日の対応は、このような形（図表3参照）で医薬品を配送しました。

1月4日以降の医薬品配送

1月4日以降については、各医療機関、保険薬局から各医薬品卸へ発注が行われ、各医薬品卸がそれぞれ配送を行っています。道路状況の悪い中、ほぼ1日かかりで配送を行いました（写真2参照）。

また、会員各社それぞれが医薬品配送を行う際、支援物資もあわせて被災エリアへお届けしました。

ライフラインの状況についていくつか紹介します。

例としてNTTドコモの1月4日9時時点の携帯



分科会17で報告する石川県薬業卸協同組合の河村事務局長

図表3 発災直後の医薬品配送について（1月2日、3日）



1月2日 9:00頃

石川県健康福祉部より被災エリア4基幹病院への緊急薬発注、配送要請を受ける速効型インスリン、破傷風トキシノイド、抗生剤（内服・外用）、消炎鎮痛剤

		輪島方面	能登町方面
1月2日	12:00頃	金沢市本社物流センター出発	
1月2日	14:30頃	七尾支店到着	
1月2日	15:00頃	七尾支店出発	
1月2日	16:30頃	穴水町基幹病院へ配送完了	
1月2日	18:00頃		道路状況により警察に制止され本日の配送断念
1月2日	20:00頃	輪島市基幹病院へ配送完了	七尾支店到着
1月2日	22:00頃	能登空港避難（車中泊）	
1月3日	9:00頃	七尾支店到着	七尾支店出発
1月3日	15:00頃		能登町基幹病院へ配送完了
1月3日	24:00頃		七尾支店到着

1月3日：医療機関、保険薬局からの要請により医薬品配送非常時対応

写真2



電話支障エリアを示しています（図表4参照）。携帯電話の支障エリアが広範囲にわたっていたこと、復旧までに約2週間を要していたこともあり、配送者の安全確認や情報の共有にかなり苦心しました。

また、震災後は通行可能なルートが刻一刻と変化しており、通行可能ルートの情報の収集には大変苦労しました。トヨタの「通れた道マップ」な

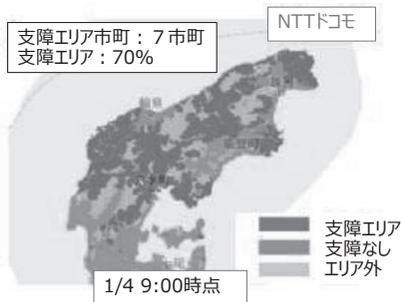
ど様々な媒体からの情報収集や、実際に配送に向かった者からの情報を共有しながら配送しました。

また、生命関連品である医薬品の配送を担っているながら、渋滞や給油の問題など、スムーズな配送ができない状況に気をもみ、もどかしく感じました。配送員の安全確認が困難な状況であったことも大変苦労しました。

図表4

ライフラインの状況について

携帯電話支障エリアの発生



通行可能ルートの情報不足



エリア支障最大時

	NTTドコモ	KDDI(au)	ソフトバンク	楽天モバイル
支障エリア市町	7市町	6市町	9市町	6市町
支障エリア	70%	82%	45%	38%
復旧 [※]	1/17	1/15	1/15	1/15

※土砂崩れなどでの立入困難箇所を除く
資料：総務省令和6年能登半島地震における情報通信の状況

渋滞の発生



給油の確保



モバイルファーマシーへの対応

モバイルファーマシーにつきましては、1月7日から全国より13台出動していただきました。日本薬剤師会と全国の薬剤師会、薬剤師の皆様のご尽力によるものであり、この場を借りて感謝申し上げます。

我々医薬品卸としましても、1月5日に石川県庁から要請を受け、1月6日に第一号の岐阜県薬剤師会のモバイルファーマシーへの納品を行いました。

その後のモバイルファーマシーへの医薬品の補充については、スプレッドシートを用いて発注していただき、医薬品卸が確認し、納品に向かうというスキームで運用しました（写真3参照）。

スプレッドシートは、発注した医薬品がどのような状態にあるのか（卸対応中、納品済）が分かる表示となっており、石川県及び石川県薬剤師会を含めて関係者間で、リアルタイムで状況を共有しました。

ご支援いただきました皆様に改めて深く感謝申し上げます。

各方面へ依頼文書の発出

今回、製薬企業へ医薬品優先供給の依頼文書を発出させていただきました。優先供給の依頼をす

ることで出荷調整品や被災エリアで必要な医薬品をいち早く被災エリアに届けることにつながるとの思いからでした。まず、石川県薬業卸協同組合から日本医薬品卸売業連合会へ相談したところ、日本医薬品卸売業連合会会長名と石川県薬業卸協同組合理事長名連名で日本製薬団体連合会へ1月9日に依頼文書を発出しています。また同日、石川県薬業卸協同組合としても、北陸エリアの製薬企業の特約店担当者へ依頼文書を直接発出しています。

また、厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課の皆様にも多大なるご支援ご指導をいただき、各製薬企業には出来得る限りの対応をしていただきました。

OTC支援物資の配送

一次避難所に対しては、OTC支援物資の配送も行いました。厚生労働省、日本チェーンドラッグストア協会、石川県、石川県薬剤師会を通じて医薬品卸4社へ要請があり、エリアを分担し配送しました（図表5参照）。

今後に向けた課題

今回の能登半島地震を受けて、今後に向けた課題だと感じたことを数点紹介します。

写真3

《能登半島地震に初投入されたモバイルファーマシー》



《モバイルファーマシー内での活動の様子》



ご協力に深く感謝申し上げます



日頃から災害対策訓練は様々な実施されているかと思えます。私が個人的に感じたことは、今回のような大規模な災害が発生すると、訓練どおりに行動することは本当に難しいということです。しかしながら、少しでも有事の際に役に立つ、エリアに則した実効性のある災害対策訓練を行うことが非常に重要であると痛感しました。

また、今回の地震で強く感じたのは、空輸輸送です。能登地震では地理的な特性もあり、陸路での医薬品供給は非常に時間を要しました。民間ヘリでの輸送を実際検討しましたが、様々な条件により、民間ヘリでは着陸ができないとのことで、空輸での輸送は断念せざるを得ませんでした。空輸の実現には、自衛隊との連携など事前に関係機関と連携方法を確立させる必要性を感じました。

緊急車両の優先通行やガソリンの優先給油の即時実現は、今回強く感じた点です。

また、医薬品卸同士の共同配送については今回検討しましたが、災害を想定した事前準備が出来ておらず断念しました。この点については、現在、日本医薬品卸売業連合会として検討に入っているとお聞きしています。

また、モバイルファーマシー出動時の医薬品卸との連携として、GSIコード等を明記した形での医薬品リストをエクセルデータで共有いただければ、卸側のマスタへの変換が容易となり、よりスムーズなモバイルファーマシーへの納品、出動が可能になるのではと感じました。

感謝された支援物資

私どもが被災エリアへお届けした支援物資で、喜ばれたものを参考までに紹介します。

断水が長引いたことにより、水が圧倒的に喜ば

図表5

一次避難所へのOTC支援物資配送



2024年1月10日 石川県薬剤師会より一次避難所へのOTC配送依頼を受ける

- 能登エリア：株式会社スズケン
- 門前エリア：株式会社ファイネス
- 輪島エリア：明祥株式会社
- 珠洲エリア：株式会社メディセオ

れました。また、感染対策に関するものも大変感謝されました。

おわりに

私ども医薬品卸は『いついかなる時も、必要なところに必要な医薬品をお届けするのが「医薬品卸」の使命』と考えています。

今後も、必要不可欠な社会インフラの一員として医薬品の安定供給を果たしていきたいと考えています。

今まさに豪雨災害にも見舞われていますが、被災地の皆様の安全と1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



分科会17の会場となったパレスホテル大宮